

地域を支える持続的コメ生産の 成立に向けた方策



PD 佐々木昭博 木村俊昭



研究の背景



コメは、我が国における基幹的食料
コメ生産は、地域経済の基盤を形成
水田の多面的機能は、地域と国土を守る重要な役割

(現状)
農村地域における高齢化の急速な進行
コメ消費の減少・米価の低迷



耕作者の減少・担い手不足、耕作地放棄地の増加
食料供給の不安定化、地域資源の荒廃や定住基盤の崩壊

**食料の安定供給と地域社会の維持発展には、
水田における持続的なコメ生産の定着が必要**



課題構成



低米価でも持続的に発展する効率的な水田農業システムの確立

【農地の視点】

PM 食糧環境経済学科 堀部 篤

大規模水田経営における担い手育成システムと米品種選定

【経営の視点】

PM 自然資源経営学科 菅原 優

機能性情報及び食農教育情報を加味したコメの商品設計による消費拡大

【商品としてのコメの視点】 PM 食糧環境経済学科 大浦 裕二

多様な主体の能力を生かすインクルーシブ水田農業の提示

【地域住民を繋ぐ視点】

PM 地域創成科学科 町田 怜子

低米価でも持続的に発展する効率的な水田農業システムの確立

目的

低米価でも持続的に発展するためのコスト削減をどう実現するか

- ①作業効率の向上 農地の集積（面積拡大）→ 集約化（連担化）
- ②農地の取引費用（地権者・地域との交渉）の低減
- ③ ①②を目指した農地政策が思うように成功しない要因の解明

研究方法

先駆的な取り組みをする水田地域の自治体、農協、経営者、地権者などを対象として、

農業構造（規模別経営体数・労働力・作付け構成、賃借料水準等）
農地利用調整方法、関係組織の連携
大規模経営体および地権者の意向
農地GIS情報
などの調査を実施

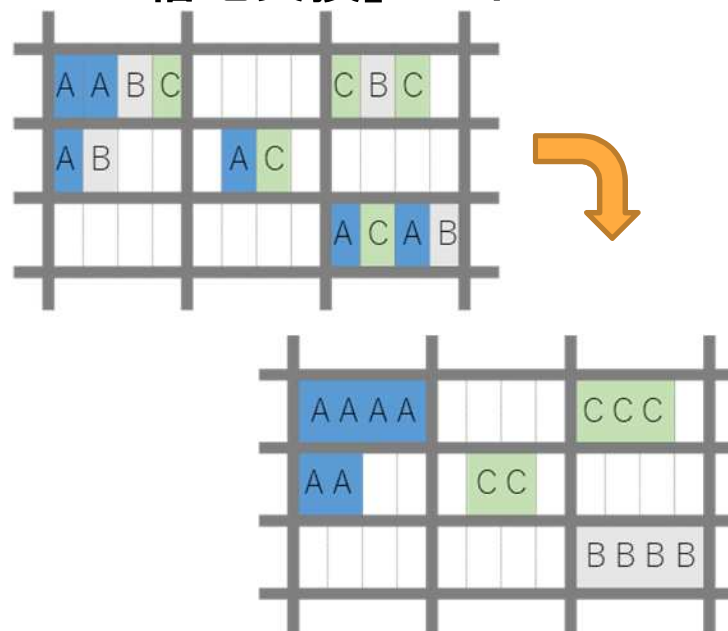


低米価でも持続的に発展する効率的な水田農業システムの確立

大規模経営体同士が、借地を交換する条件の提示
→ 効率的な作業、スマート農業

借地交換を自治体・農協・農業委員会が推進できる方法の提示
→ 国の政策の有効な利用方法

「借地交換」のイメージ



大規模水田経営における担い手育成システムと米品種選定

目的

- ①大規模水田経営における家族経営体、法人経営体の後継者確保・人材育成システムの確立過程の解明
- ②東北被災地（原発避難解除地域）における新たな担い手形成のシステム化の検討
- ③大規模水田経営における米品種の選考基準の明確化

研究方法

大規模水田経営が存在する北海道および東北地方を対象として、

- ①農業センサスを用いた統計分析
- ②家族経営体と法人経営体へのヒアリング調査
- ③米の品種選考に関するアンケート調査



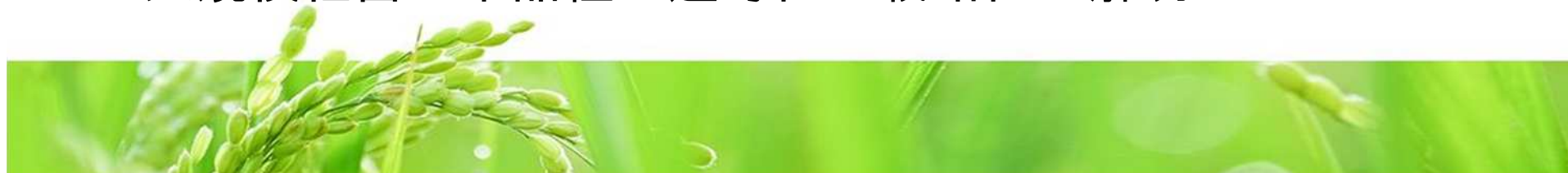
大規模水田経営における担い手育成システムと米品種選定

期待される成果

人材確保に向けた複合化・多角化、経営組織と人材育成システムの構築

東北被災地の新たな担い手形成のための支援システムの構築

大規模経営の米品種の選考性と戦略性の解明



機能性情報及び食農教育情報を加味した コメの商品設計による消費拡大

- ① 複線径路・等至点モデルを用いた面接調査 → コメ消費減少の要因を特定
- ② ナッジ理論を用いたWEB調査 → 機能性・食農教育情報の効果を測定
- ③ 視線計測装置を用いた購買行動実験 → 効果的なパッケージを評価

複線経路・等至点モデル



視線計測 (アイトラッキング)



機能性情報及び食農教育情報を加味した コメの商品設計による消費拡大

期待される成果

消費者の機能性及び食農教育への関心の醸成
(消費者に新たなコメの魅力を訴求)

コメ消費拡大のための具体的な商品提案
(陳列・表示内容・表示方法の提案)



多様な主体の能力を生かすインクルーシブ水田農業の提示

目的

幅広い人が農業に触れる機会を創出するインクルーシブ（社会包括的）農業による地域活性化

コメに触れる機会を拡大するインクルーシブ農業のモデル構築
→ 農福連携+ α （食農教育）

研究方法

- ①水田における農作業別にみる難易度・要支援度の類型化
 - ②水田における農作業別にみるヒヤリ・ハット調査
 - ③インクルーシブ水田農業に向けた農作業プログラムの開発とデータベース化
- *AI画像診断・スマート農業を活用した農業支援プログラムの導入



多様な主体の能力を生かすインクルーシブ水田農業の提示

期待される成果

多様な主体が安心・安全に参画できる水田農業の機会拡大

障がい者や高齢者の生きがいや雇用創出

食農教育機会の拡大
一人ひとりの個性を生かし支えあう農業分野の社会包括支援の広域実装

